

## 2月は生活排水対策推進月間です。

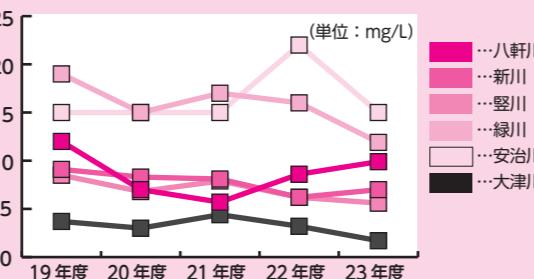
川などの水の汚れのうち約8割が生活排水によるものです。家庭でできる次の生活排水対策にご協力お願いします。

- ▷流しの排水口に水切り袋をつける
- ▷食用油は、流しに流さないようにする
- ▷食器の汚れは拭き取ってから洗う
- ▷洗剤は適量を使う
- ▷浄化槽を正しく管理する

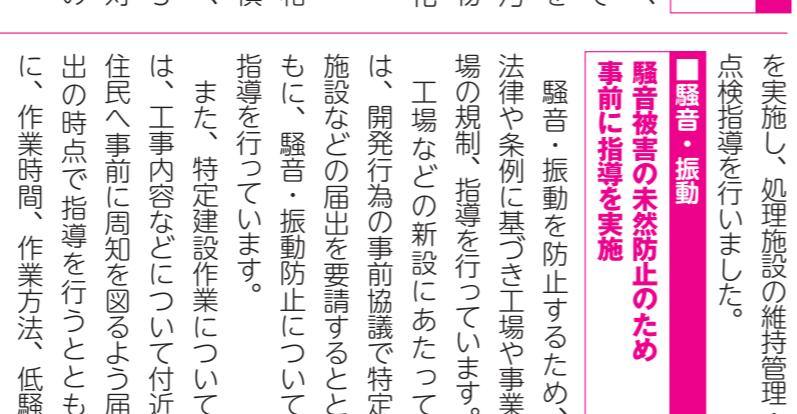
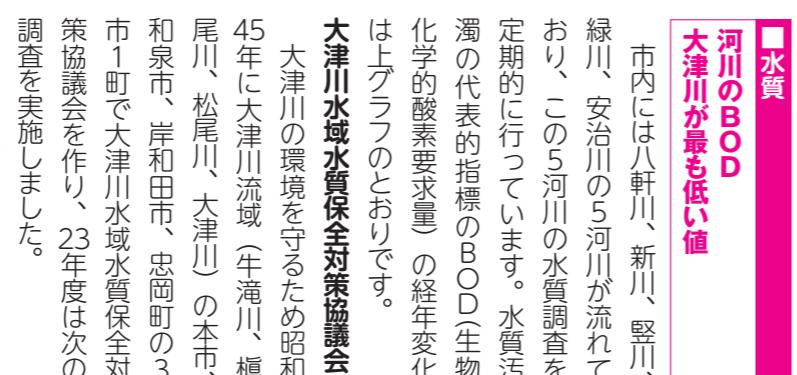
一人ひとりの小さな取り組みが、大きな効果につながります。皆さんのご家庭でできることから少しづつ、始めてみませんか。また、飲食店や旅館などの事業所についても、同様の取り組みをお願いします。

問合 環境課（市役所2階21番窓口）

■市内河川のBOD経年変化（年平均値）



(参考) 大気汚染物質測定結果	物質	環境基準(※)	H22年度の測定結果
			1時間値が0.06ppm以下であること
	光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること	1時間の1時間値が0.06ppmを超えた日数は70日(308時間)で環境基準は未達成
	浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下で、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること	環境基準の長期的評価に係る年間の日平均値2%除外値は0.053mg/m <sup>3</sup> 、年平均値は0.024mg/m <sup>3</sup> 、1時間値の最高値は0.198mg/m <sup>3</sup> 。5月に黄砂の影響により2日連続で基準値を超えたため環境基準は未達成
	二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04~0.06ppmまでの範囲内またはそれ以下であること	環境基準の長期的評価に係る日平均値の年間98%値では0.035ppm、年平均値は0.016ppmと、環境基準に適合



## ふるさと納税制度 を活用し、わたしたちのまち、泉大津市を応援してください！



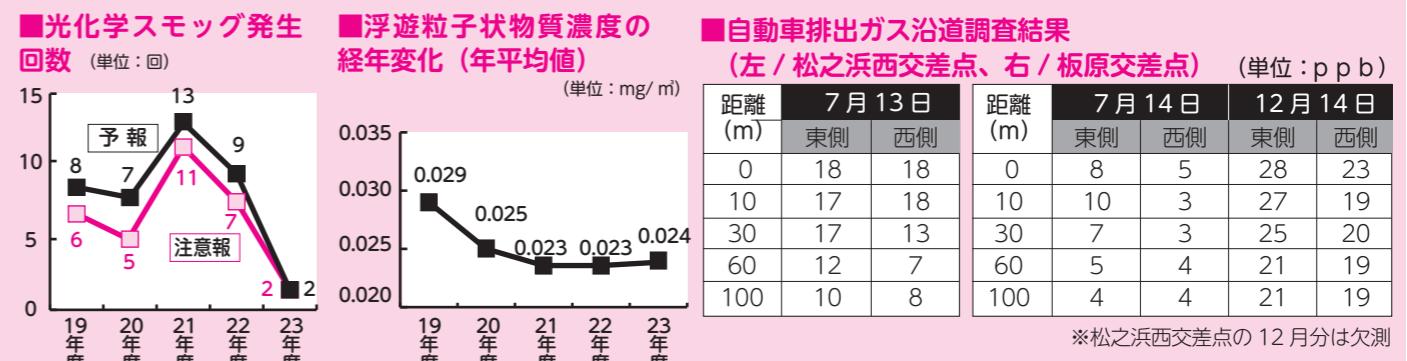
ふるさと納税制度について詳しくは、泉大津市HPをご覧ください！

問合 企画調整課(市役所4階)



# 環境から見た泉大津のいま

平成23年度版



空気・水・音…わたしたちをとりまく環境の現状はどうなっているのでしょうか。本市では、市役所6階に設置している大気汚染常時監視システムで大気の状況を調査しています。ほか、水質などについて、平成23年度分の調査結果を公表します。

問合 環境課(市役所2階21番窓口)

● 気象の状況	● 光化学スモッグ発生回数
本市での主風向は東の風(陸風および西北西の風(海風)で、風速は年平均値で秒速2.9mと広範囲にわたっています。	前年より大きく減少

● 非メタン炭化水素  
非メタン炭化水素は光化学スモッグの原因物質のひとつと考えられており、主な発生源は自動車、溶剤使用工場、ガソリンスタンドなどです。

浮遊する粒径が10マイクロメートル以下の物質であり、発生源は人為発生源と自然発生源に分類され、粒子の性状(粒径、成形など)が異なることから、最近は単に量だけでなく性状についても注目されています。浮遊粒子状物質濃度の経年変化は上グラフのとおりです。

市役所に連絡してください。  
出ないようにして、日やのどに刺激を感じたときは、水で洗眼やうがいを行い、保健所もしくは

● 二酸化炭素  
二酸化炭素は空気中や燃料中に含まれる窒素が物の燃焼に伴い酸化され発生するもので、光化学スモッグの原因物質のひとつと考えられています。その発生源は工場などのボイラーや家庭の湯沸かし器などの固定発生源および自動車などの移動発生源と広範囲にわたっています。

工場などに対しても、ガスなどの良質燃料への転換や低窒素酸化物対策を指導しました。

● 一酸化炭素  
一酸化炭素は、物の燃焼において酸素不足のため不完全燃焼となつた際に発生します。その主な発生源は自動車であり、市では泉大津警察署と合同で3月にガソリン車を対象とした自動車排出ガス街頭検査を実施し点検整備などの啓発を行いました。

● 街頭検査の結果はガソリン車

自動車の炭化水素については、一酸化炭素と同時に街頭検査を行い、点検整備などの啓発に努めました。街頭検査は50台の車に対して実施し、すべての車が基準に適合していました。また、工場などについては、府生活環境の保全等に関する条例に基づき、府と合同で適正な施設の稼動を指導しました。

● 光化学オキシダント  
光化学オキシダントは光化学スモッグの主成分で、窒素酸化物と非メタン炭化水素の光化学反応により生成する酸化物質です。また、光化学スモッグ予報などの発令回数は、上グラフのとおり、予報2回、注意報2回でした。

市では光化学スモッグの被害から市民を守るため、予報などが発令された際は、市内の公共施設に旗などを掲げて周知を図っています。

● 自動車排出ガス沿道調査  
市では自動車から排出される窒素酸化物による環境への影響を把握するため、大阪臨海線松之浜西交差点において沿道調査を実施しました。測定結果は上表のとおりです。一般的に、二酸化硫黄や浮遊粒子状物質などは発生源からの距離とともに減少しますが、風向や気温・日射量などによっても変化します。

浮遊する粒径が10マイクロメートル以下の物質であり、発生源は人為発生源と自然発生源に分類され、粒子の性状(粒径、成形など)が異なることから、最近は単に量だけでなく性状についても注目されています。浮遊粒子状物質濃度の経年変化は上グラフのとおりです。

市では自動車から排出される窒素酸化物による環境への影響を把握するため、大阪臨海線松之浜西交差点において沿道調査を実施しました。測定結果は上表のとおりです。一般的に、二酸化硫黄や浮遊粒子状物質などは発生源からの距離とともに減少しますが、風向や気温・日射量などによっても変化します。

● 浮遊粒子状物質  
浮遊粒子状物質とは大気中に出ないようにして、日やのどに刺



